



日本・東ティモール協会を設立する元大使

顔

北原
きたはら

巖男さん
いわお さん 65

を務めたあと、2008年から11年まで東ティモールに日本大使として赴任した。足を運んだ農村で、はだしの子供が泥まみれになって遊ぶ様子

が、長野県の山村で育った自分の姿に重なったという。現地の歌を覚えて村人と仲良くなり、その童顔から「じいちゃん少年」のあだ名をもらつた。

「紛争地のイメージがありましたが親切な人ばかり。小川の橋が大雨で流され車が立ち往生したとき、村人たちが竹で橋を架けてくれた」

民間の交流・支援団体を作

る構想は大使在任中から温め

ていた。この5月に一般社団法人「日本・東ティモール協会」を発足させる。経済人や大学教授、民間活動団体の代表ら数人を核にメンバーを増やしていく。

すでに「設立準備事務局」を設け、現地の高校生に奨学金を給付するなどの活動を始めている。今後は、現地の学校に簡易水道を建設するなど、衛生面の改善にも力を入れる予定だ。

大使を退任して約1年半で、同国への訪問は4回を数える。「残りの人生は、この国の人々と歩んでいくつもりです」(生活部 岡安大地)